

2021年 一橋大本番レベル模試（第2回） 世界史

採点基準

全3問 120分 150点満点

I (50点)

採点基準

問1 3点

問2 (基準の合計57点→47点満点)

* ローマ時代 (基準の合計11点)

〔ローマ時代①〕 (ローマ進出以前は) ケルト人が居住していた 2点

〔ローマ時代②〕 カエサルの遠征/ガリア遠征で (パリは) ローマ領となった 4点

- ・ ガリア遠征/カエサルへの言及がない場合は2点のみ

〔ローマ時代③〕 ローマ化が進んだ/ローマの (外敵からの) 防衛拠点として位置づけられた 2点

- ・ ローマ化の内容を具体的に説明していても可 (例: 「ローマ風の都市が建設された」「道路や水道が整備された」「円形闘技場/浴場が建設された」「ローマ文化が浸透した」)

〔ローマ時代④〕 パリはルテティアと呼ばれた 3点

* メロヴィング朝・カロリング朝時代 (基準の合計11点)

〔メロヴィング朝時代①〕 メロヴィング朝/フランク王国の首都はパリに置かれた 4点

- ・ 「首都である」ことに言及していない場合は2点のみ (例「パリはメロヴィング朝の支配下におかれた」は2点のみ)

〔メロヴィング朝時代②〕 教会/修道院の建立が進められた 3点

- ・ キリスト教化が進んだ時期であることがわかれば表現は幅広く許容

〔カロリング朝時代〕 カロリング朝ではパリの重要性が低下した 4点

- ・ パリに関してメロヴィング朝時代との違いを指摘できていれば表現は幅広く許容 (例: 「カロリング朝期にはパリからアーヘンに首都が移った」は可)

* カペー朝期 (基準の合計46点→35点満点)

〔政治上の役割①〕 パリはカペー朝の首都となった 3点

〔政治上の役割②〕 (カペー朝の創始者は/パリを首都としたのは) ユーグ=カペー 2点

〔政治上の役割③〕 フィリップ2世は中央集権化を進めた 4点

- ・ フィリップ2世に言及していないものは2点のみ (例「カペー朝の王は中央集権化を進めた」は2点のみ)

〔政治上の役割④〕 (フィリップ2世は) パリの首都機能を強化した/首都を整備した 3点

〔経済上の役割①〕 フランスでは (森林の) 開墾/ (湿地の) 干拓/技術革新が進んだ 2点

〔経済上の役割②〕 (①を背景に) 農業/商業が成長した 3点

- 「耕地が増大した」「村落／都市が増加した」「貨幣経済が浸透した」も可

[経済上の役割③] (②を背景に) パリでは大市場が開かれた／パリが経済的に発展した 2点

- 農業／商業／経済の発展とパリとを関係づけていけば表現は幅広く許容 (例「フランス中の農産物がパリに集積した」は可)

[経済上の役割④] パリはセーヌ川沿いにあり交通が便利だった 4点

- 「パリはセーヌ川沿いに位置していた」ことだけを指摘しその意義が文脈から読み取れないものは2点のみ

[経済上の役割⑤] パリはシャンパーニュ地方と交易関係があった 2点

- パリとシャンパーニュ地方との関連性を説明していれば可 (例:「パリはシャンパーニュ地方に近かった」「シャンパーニュ地方の先進性がパリに波及した」は可)

[経済上の役割⑥] シャンパーニュ地方は(南北)交易路の要地であった／定期市が開かれていた 4点

- 文章の内容をもとにシャンパーニュが「先進地域」だった理由を簡潔にまとめていけば表現は幅広く許容

[経済上の役割⑦] (③～⑥を背景に) パリにはヨーロッパ各地から商人が来訪した 2点

- 「経済的発展」と「パリの国際都市化」とが結び付けられていけば表現は幅広く許容

[文化上の役割①] ノートルダム大聖堂(建設)の背景にはパリの経済的発展があった 4点

- 大聖堂と経済的発展を結びつけていけば表現は幅広く許容 (例「(パリの) 富裕な商人層主導で大聖堂が建てられた」は可)
- 背景を指摘していないものは不可 (例「ノートルダム大聖堂が建てられた」のみは不可)

[文化上の役割②] ノートルダム大聖堂はゴシック様式の聖堂である 2点

[文化上の役割③] パリ大学はノートルダム大聖堂の付属学校に起源があった 3点

- パリ大学設立の宗教的背景を指摘していれば可 (例「パリ大学の学長はパリ大司教」「パリ大学はパリの(司教座)教会に付属していた」はいずれも可)
- パリ大学の設立のみに言及しているものは2点のみ

[文化上の役割④] パリ大学は神学研究の拠点となった 4点

- 「パリ大学」と「神学」とが結び付けられていけば表現は幅広く許容 (例「パリ大学は神学で名高かった」は可)

[文化上の役割⑤] (パリには) 各国から学生／知識人が集まった 2点

- 文化的側面からパリの「国際都市化」を説明できていけば表現は幅広く許容

II (50点)

採点基準

(基準の合計 60 点→50 点満点)

* 独立後のアメリカ合衆国の経済 (基準の合計 38 点→30 点満点)

[アメリカ=イギリス戦争①] アメリカ=イギリス戦争が勃発した 4点

[アメリカ=イギリス戦争②] 工業製品の輸入が途絶えた 4点

[アメリカ=イギリス戦争③] (①・②の結果) 工業化が進んだ 2点

- アメリカ=イギリス戦争と関連付けられているもののみ加点

[南北戦争①] 北部は保護貿易を主張した 4点

[南北戦争②] 南部では綿花生産が主要な産業だった 4点

[南北戦争③] 綿花は主にイギリスに輸出された 2点

[南北戦争④] 南部は自由貿易を主張した 4点

[南北戦争後のアメリカ経済①] 南北戦争で北部が勝利した 2点

[南北戦争後のアメリカ経済②] 大陸横断鉄道が完成した 2点

[南北戦争後のアメリカ経済③] (①の結果, 北部主導の) 工業化が進展した 4点

- 工業化が進行したことが読み取れれば広く表現は認める (例「産業革命が進行した」「重工業が発展した」はいずれも可)
- 南北戦争の北部勝利と関連付けられているもののみ加点

[南北戦争後のアメリカ経済④] 国内市場が統一された／拡大した 2点

[南北戦争後のアメリカ経済⑤] 解放された黒人は北部で工場労働者となった 2点

- 黒人が経済発展／工業化を支えたことが読み取れれば広く表現は認める

[南北戦争後のアメリカ経済⑥] (アジア・東欧・南欧からの) 移民がアメリカ合衆国の工業化を支えた 2点

- 移民である事が読み取れれば広く表現は認める (例「クーリーらが工業化を支えた」は可)

* 独立後のラテンアメリカ諸国の経済 (基準の合計 36 点→30 点満点)

[ラテンアメリカの独立①] クリオーリヨが独立を主導した 4点

[ラテンアメリカの独立②] クリオーリヨはプランテーションを経営した 2点

- 「大地主であった」などの表現も許容する

[ラテンアメリカの独立③] ラテンアメリカの独立はイギリスに支持された 2点

[ラテンアメリカの独立④] 当時のイギリス外相はカニングである 2点

[ラテンアメリカの独立⑤] イギリスは経済進出を意図して独立を支援した 2点

- イギリスの意図を説明できていれば加点する

[ラテンアメリカの経済①] クリオーリヨ／カウディーリヨが政権を握った 2点

- 「クリオーリヨ／カウディーリヨ」は「地主(層)」でも可

[ラテンアメリカの経済②] 自由貿易政策が採用された 4点

[ラテンアメリカの経済③] プランテーション経営が存続した 2点

- 「大農園制が存続した」など, 大土地所有制が存続したことが読み取れれば可

[ラテンアメリカの経済④] 工業製品はイギリスからの輸入に頼った 2点

- イギリスが挙げられていない場合は1点のみ
- 「工業製品」が挙げられていないものは不可

[ラテンアメリカの経済⑤] (ラテンアメリカ諸国はヨーロッパに) 一次産品/商品作物を輸出した 4点

- 具体的な商品の名前を挙げているものも可 (例「コーヒーや硝石などを輸出した」は可)
- 「輸出」に言及していないものは2点のみ (例「大農園では商品作物/コーヒー/サトウキビが栽培された」は2点のみ)
- 貿易に関する記述はここで加点する (例「一次産品の輸出に依存した」は可)

[ラテンアメリカの経済⑥] モノカルチャー (経済) に陥った 4点

- 経済構造に関する記述はここで加点する
 - モノカルチャー (経済) について言及がなく、単に一次産品の生産に依存する経済構造について記述されている場合は2点のみ
- 例:「サトウキビや牛肉の生産に依存するようになった」

[ラテンアメリカの経済⑦] (⑥の結果として) ラテンアメリカ地域では工業化が進展しなかった 2点

[ラテンアメリカの経済⑧] イギリスへの経済的従属が強まった/イギリスの資本に依存した 4点

- イギリスが挙げられていない場合は2点のみ (例「ヨーロッパ/列強に従属した」は2点のみ)

Ⅲ (50点)

採点基準

(基準の合計 100 点→50 点満点)

* 朱子学の地位

〔朱子学の地位①〕 朱子学は明と朝鮮で官学／国学となった 3点

〔朱子学の地位②〕 朱子学は明と朝鮮で科挙に用いられた 3点

- ・ ①②いずれも明と朝鮮の両国における地位を記していなければ不可

〔朱子学の地位③〕 儒学／朱子学の素養を持つ（科挙）官僚の争いは明と朝鮮で国難を招いた 2点

- ・ 両国に共通する性質として一般化して述べていなければ加点しない
- ・ 単に各国での事例を並べるだけでは不可
- ・ 儒学ないし朱子学と国難の関連が文脈から読み取れなければ不可

* 明における朱子学と社会

〔明における朱子学①〕 『四書大全』『五経大全』『性理大全』が編纂された 3点

- ・ 『四書大全』『五経大全』『性理大全』のうち、二つ以上が書かれていれば可
- ・ 『四書大全』『五経大全』『性理大全』のうち、一つしか書かれていない場合は1点のみ

〔明における朱子学②〕（これらの編纂により）経典解釈が固定化された 3点

〔明における朱子学③〕 朱子学は民衆を教化するための／支配者側の教えとなった 2点

- ・ 「国内統制のため」といった記述も可とする

〔明における朱子学④〕（民衆教化の例として）六諭 2点

〔政治社会に対する影響①〕 科挙官僚が政治を担った／政界に進出した 2点

〔政治社会に対する影響②〕（当時の指導者階層は）士大夫／郷紳 2点

- ・ どちらかの語が適切に用いられていれば可

〔政治社会に対する影響③〕（彼らは）文化形成の役割をになった 4点

〔政治社会に対する影響④〕（彼らの一部は）都市に居住した 2点

〔政治社会に対する影響⑤〕 富裕な生活は女真（満州）族台頭のきっかけになった 2点

〔朱子学と外交①〕 明を中心とする華夷秩序が形成された 2点

- ・ 鄭和の遠征や日明貿易など明代の適切な事例を挙げても可とする

〔朱子学と外交②〕 明は朝鮮を冊封した／朝鮮の朝貢を受けた 4点

〔朱子学と外交③〕（朝貢／冊封体制づくりには）朱子学／大義名分論が影響している 2点

- ・ 外交と朱子学理論の関係がはっきり読み取れなければ不可

* 明における陽明学

〔儒学の政治社会に対する影響①〕 陽明学が生まれた 4点

〔儒学の政治社会に対する影響②〕 陽明学は庶民に受容された 2点

〔儒学の政治社会に対する影響③〕（その背景として）政争の激化／朱子学への反発 2点

* 明の後期における様々な困難

〔16世紀後半から17世紀前半の困難①〕北虜南倭（の状況） 4点

- 南北両方の脅威に言及していれば「遊牧民族と倭寇への対応」のように記述しても可

〔16世紀後半から17世紀前半の困難②〕（16世紀後半における）財政難 2点

- 張居正着任前後のことだと文脈からわからなければ不可

〔16世紀後半から17世紀前半の困難③〕張居正が改革を行った 3点

〔16世紀後半から17世紀前半の困難④〕（改革は）中央集権的であった 3点

〔16世紀後半から17世紀前半の困難⑤〕（改革の例として）一条鞭法／戸籍調査／綱紀肅正 2点

〔16世紀後半から17世紀前半の困難⑥〕東林派と非東林派が争った 3点

〔16世紀後半から17世紀前半の困難⑦〕東林派は張居正の政策／宦官を批判した 3点

- 東林派は張居正の没後に台頭したため「張居正と対立した」などの記述は不可

〔16世紀後半から17世紀前半の困難⑧〕朝鮮を援助したことが負担となった 2点

〔16世紀後半から17世紀前半の困難⑨〕（17世紀前半に）後金／清が台頭した／脅威となった 2点

- 国号に言及していなければ不可（「女真族」「満州族」は不可）

〔16世紀後半から17世紀前半の困難⑩〕李自成の乱により滅亡した 2点

- 李自成の乱の結果に言及していない場合不可

* 朝鮮における儒教

〔朝鮮における儒教①〕高麗に続いて科挙が実施された 2点

- 高麗から科挙が実施されていたことが指摘されていなければ加点しない

〔朝鮮における儒教②〕両班が支配階層となった 2点

〔朝鮮における儒教③〕（朝鮮では）陽明学は不振だった 2点

〔儒教の政治社会に対する影響〕科挙合格者は有力家門に集中した／家柄（身分）が固定化された 4点

- 文脈上わかれば加点

〔16世紀後半から17世紀前半の困難①〕士林派／朱子学の信奉者が分裂／対立した 3点

〔16世紀後半から17世紀前半の困難②〕党争は学派争いと結びついた 3点

- 政治的対立が学問的対立に起因していることをはっきり述べている答案にのみ加点

〔16世紀後半から17世紀前半の困難③〕党争が（日本の）侵略に対しての情勢判断の誤りにつながった 4点

- 情勢判断に言及していない「豊臣秀吉の侵略を許した」などの記述は不可

〔16世紀後半から17世紀前半の困難④〕朝鮮は侵略を撃退した 2点

〔16世紀後半から17世紀前半の困難⑤〕（撃退には）李舜臣の水軍／明の援軍が貢献した 2点

〔16世紀後半から17世紀前半の困難⑥〕朝鮮の国土は荒廃した 2点

〔16世紀後半から17世紀前半の困難⑦〕後に清／ホンタイジに服属した 2点